

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

EHIME UNIVERSITY

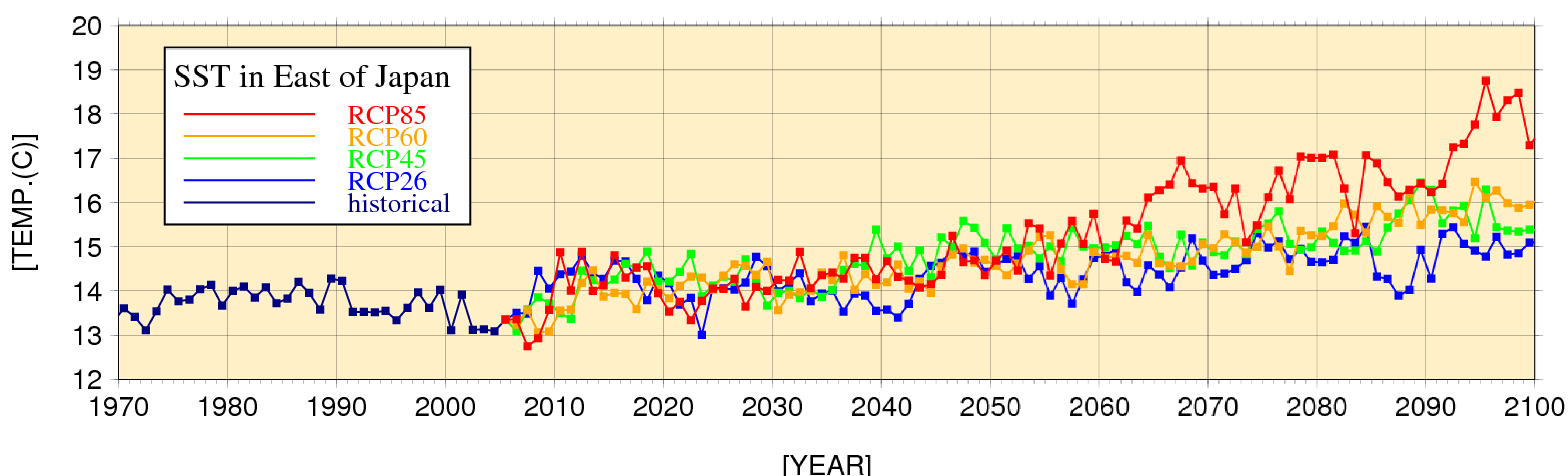
気候変動による黒潮・親潮域の変化予測

水産機構 中央研究所、東北区水産研究所、
北海道区水産研究所、東京大学、愛媛大学



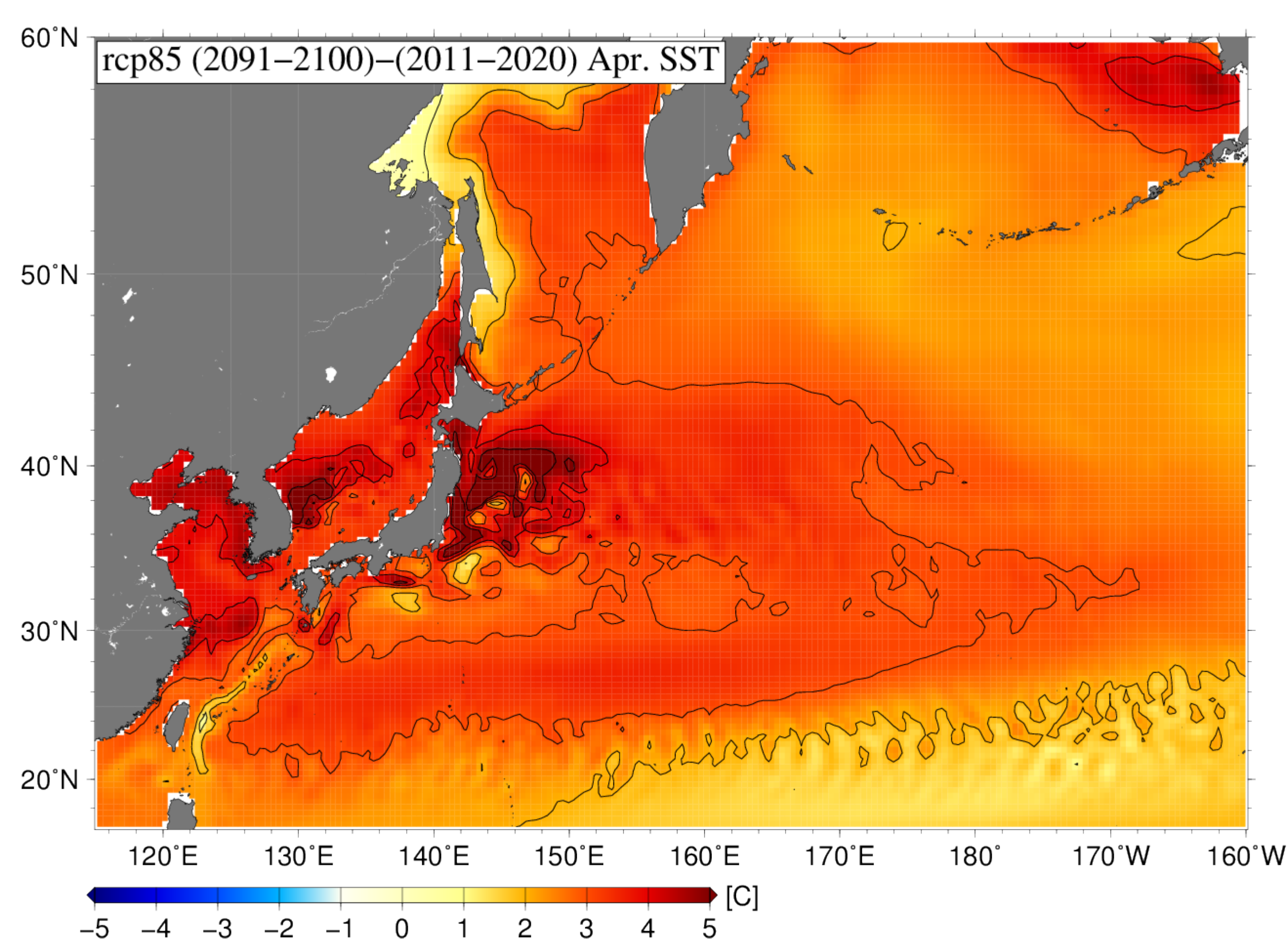
海洋モデルを用い、地球温暖化シナリオに基づき高解像度モデルにより黒潮・親潮域の予測計算を行いました。温暖化後に黒潮・親潮域を含む日本周辺海域は昇温し、特に日本東方海域で昇温することがわかりました。また、海面の塩分は降水等の増加により、低塩化する海域があることがわかりました。

1 日本東方海域における海面水温変化



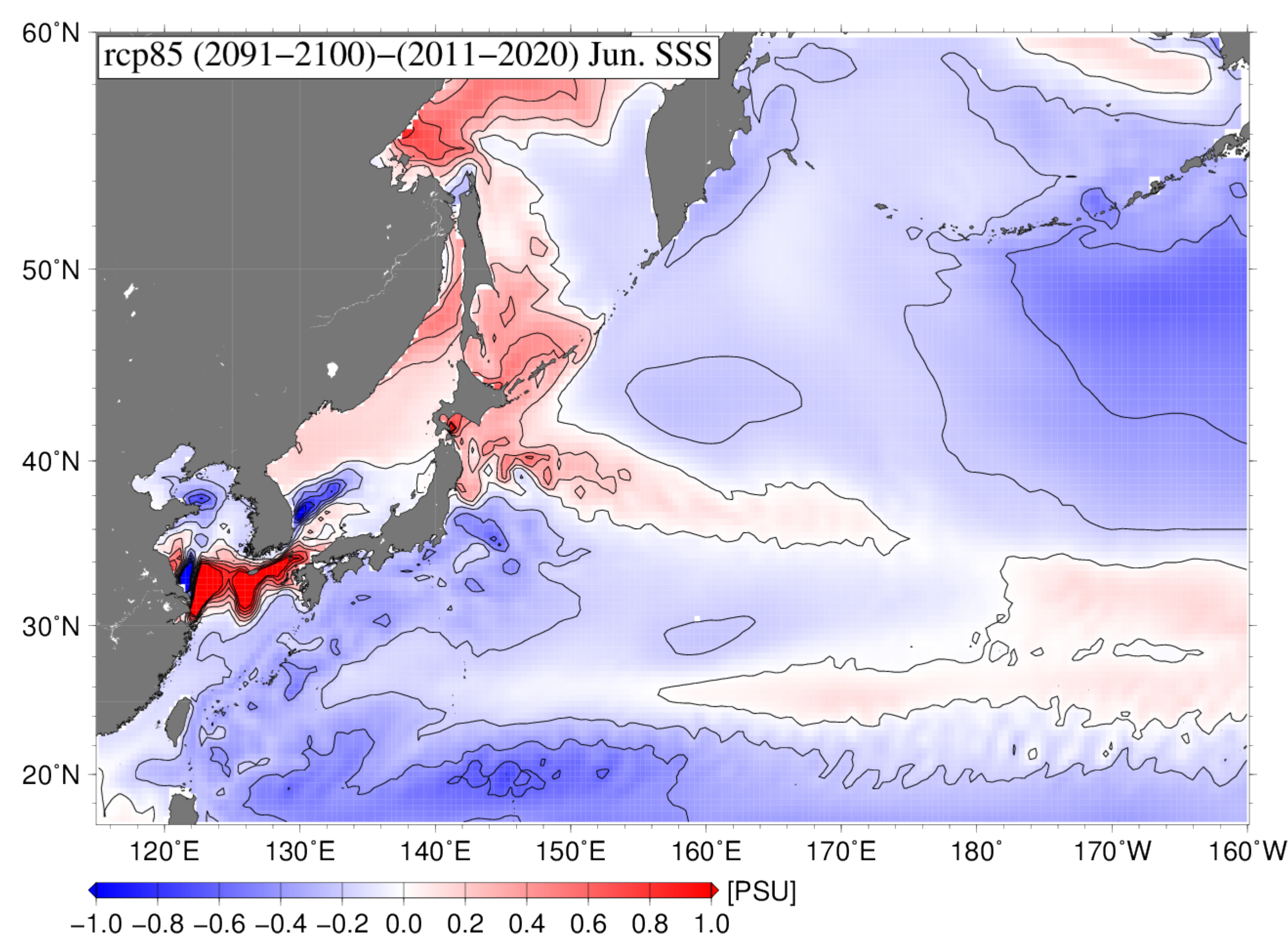
図の説明: CMIP5-MRI-CGCM3による日本東方海域の海面水温の変化。RCPは代表濃度経路シナリオ (Representative Concentration Pathways)。代表濃度はRCP8.5>RCP6.0>RCP4.5>RCP2.6。

2 100年後と現代気候との差: 海面水温



図の説明: 100年後(2091-2100平均)と現代気候(2011-2020)の差。海面水温。RCP8.5。

3 100年後と現代気候の差: 海面塩分



図の説明: 100年後(2091-2100平均)と現代気候(2011-2020)の差。海面塩分。RCP8.5。

● 普及・社会実装への道筋

黒潮・親潮の水温・流れの精密な予測結果は黒潮・親潮の海洋環境・漁業資源(サンマ等)の資源量や分布・生息域の将来予測を可能とします。